

# 平成 27 年 国勢調査結果「高岡市版」

## ご利用にあたって

今回の国勢調査の調査期日、調査の対象、調査事項、調査の方法等については総務省統計局のホームページ「平成 27 年国勢調査の概要」を参照のこと。<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/gaiyou.htm>

また、統計表は表自体が大きいため別葉（EXCEL データ）とし、統計表の番号は比較しやすいように前回調査時（平成 22 年）の統計表と同じ番号を付番している。また本文中に統計表を指し示す場合は下線を付した。

## 1 高岡市の人口の推移

第 1 表その 1 に、初回国勢調査（大正 9 年）から第 20 回となる今回調査までの数値および本市域の変遷をまとめた。また、第 1 表その 2 には平成 17 年 11 月の旧福岡町との合併後の現市域における国勢調査の数値を遡及して集計した。

平成 27 年国勢調査における本市の人口は 172,125 人、世帯数は 63,814 世帯となっている。人口は旧福岡町との合併により平成 22 年(2010 年)がピークとなっているが、現市域として遡及して集計すると昭和 60 年(1985 年)がピークとなっている。世帯数は継続的に増加している。

## 2 人口集中地区（DID 地区）

第 2 表に、本市に 2 か所存在する人口集中地区（以下 DID）の人口、世帯数を過去 3 回にわたり掲載し、併せて平成 17 年調査を基準とした指数及び各回の DID 人口比率を掲載した。また、DID 図その 1 に過去 3 回の高岡市人口集中地区図を、DID 図その 2 に前回調査と今回調査の DID 図を重ね合わせたものを掲載した。

DID の面積について、旧高岡市街を中心とした DID 地区は面積が拡大しており、伏木地区の DID 地区は面積が減少している。前回調査と比較すると、横田地区、能町地区、野村地区、伏木地区、木津地区で DID 面積が拡大している。これは市街地農地を埋め立てた宅地開発やアパート建設が影響しているものと思われる。伏木地区の DID 面積が減少している原因は、調査区割りの変更によるものと、隣接地域も含めた人口密度の減少によるものと思われる。

DID 人口比率を見ると、平成 17 年調査から平成 22 年調査へは、福岡町との合併によって一時的に DID 人口比率が減少したが、平成 22 年調査から平成 27 年調査へは、若干 DID 人口比率が増加した。この傾向は富山県及び全国においても見られることから、人口減少時代に突入し DID 地区以外の人口減少のほう大きいことに起因するとみられる。

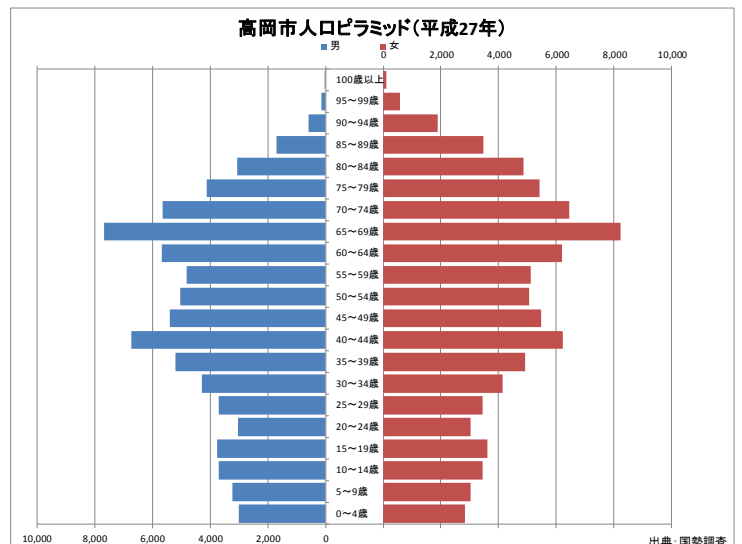
## 3 年齢別人口

第 3 表に、国勢調査時の市域、旧高岡市、旧福岡町、現市域の年齢（各歳、5 歳階級）、男女別人口の推移を国勢調査 6 回分について掲載した。年齢 3 区分別人口と割合の推移（年少人口・生産年齢人口・老年人口）については第 4 表に別に掲載した。

いわゆる団塊の世代の中心が 65 歳を超えたことにより 65 歳以上の割合が今回調査で初めて 3 割を超えた。また、団塊ジュニア世代の中心が 40 歳を超えたことから、今後出産可能年齢の女性の数自体が減少し、少子化がさらに加速することは避けられない。

大学が少ない地域に共通してみられることとして

【グラフ 1】



20歳前後の年代の人口が大学の多い都市部へ流出してしまう現象がある。[グラフ 1]及び[グラフ 2]の人口ピラミッドを見ると高岡市だけでなく、富山県全体として、20歳前後の年代の人口が都市部へ流出し、くびれた形をしていることが分かる。このことから富山県全体として働く場の創出やUIJ ターン対策等の取り組みが重要になると思われる。

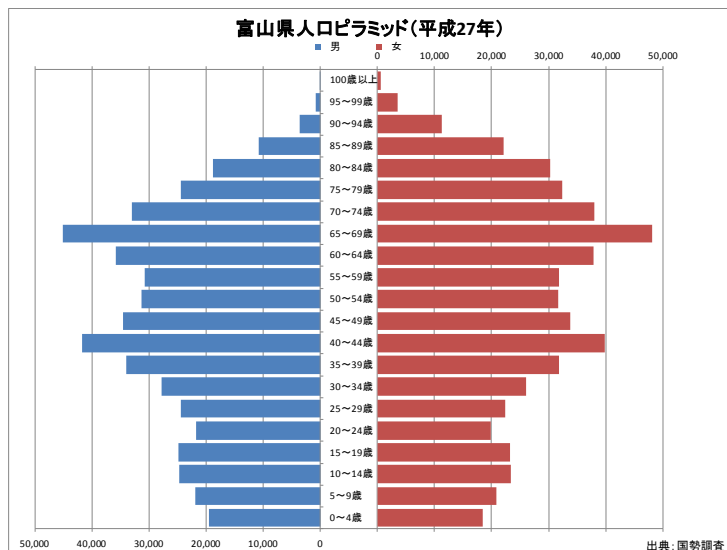
#### 4 配偶関係

第5表に、年齢（5歳階級）、配偶関係、男女別15歳以上人口を掲載した。また、[グラフ 3]に男女別の未婚率を示したグラフを掲載した。

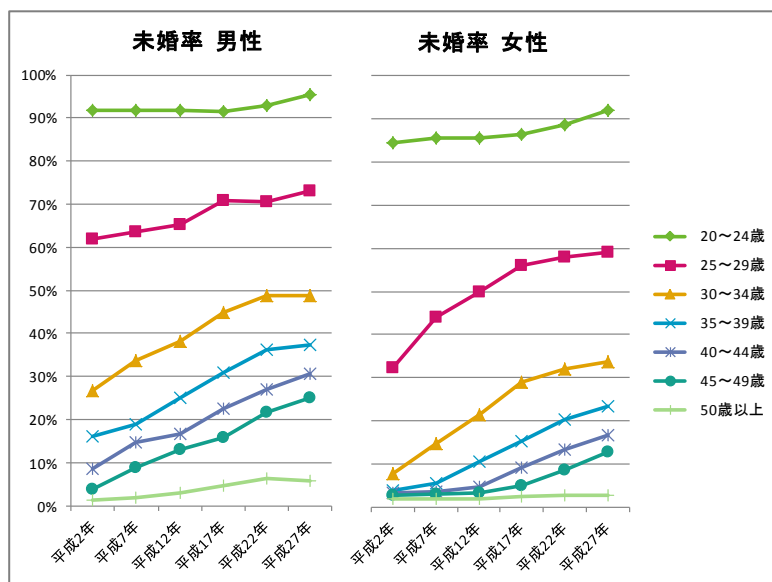
[グラフ 3]において、男女とも右肩上がりとなっていることから晩婚化が進んでいることが分かる。男性の30代前半と後半、女性の20代後半と30代前半においてはカーブがなだらかとなっており、晩婚化の進行には一定の歯止めがかかっている。

しかし、現在の50歳以上の未婚率は低く、夫婦や家族単位で生活している人がほとんどだと考えられるのに対し、その下の世代の未婚率は女性で1割を超え、男性では2割を超えている。よって今後、高岡市においても高齢のいわゆる「おひとりさま」が増加し、高齢になることでの病院通いや入院、施設入所時の問題、認知症の問題や家族間の共助がはたらかないことによる生活費の問題などが増加することが予想される。

[グラフ 2]



[グラフ 3]



## 5 世帯状況

第6表に世帯の種類別世帯数及び世帯人員を、第7表に、世帯人員別世帯数及び世帯人員を掲載した。

人口が減少する中、世帯数は平成17年調査から平成22年調査間で2.6%増加、平成22年調査から平成27年調査間で2.9%増加している。その結果、1世帯当たり人員は2.65人となっている。そのうち、1人世帯は平成17年調査から平成22年調査間で17.6%増、平成22年調査から平成27年調査間で14.5%増加している。[表1]を見ると65歳以上の1人世帯も増加しており、平成27年調査では世帯総数の11.0%が65歳以上の1人暮らしとなっている。この単身世帯、高齢者単身世帯の割合は前項の未婚率をかんがみれば今後さらに増加することが予想される。

### 65歳以上世帯員がいる一般世帯数

(単位：世帯)

区分	世帯総数	うち65歳以上世帯員がいる世帯							
		総数(世帯人員)	世帯人員が1人	世帯人員が2人	世帯人員が3人	世帯人員が4人	世帯人員が5人	世帯人員が6人	世帯人員が7人以上
平成17年	60,310	28,261	4,290	8,094	4,917	3,684	3,290	2,588	1,398
平成22年	61,897	30,829	5,388	9,653	5,717	3,810	2,839	2,251	1,171
平成27年	63,701	33,970	6,995	11,453	6,343	3,784	2,586	1,839	970

※平成17年は「65歳以上親族のいる一般世帯」。旧高岡市と旧福岡町を合算。

また、第6表と第8表には施設等の世帯数を掲載した。療養病床から介護施設への転換を政府が進めてきた結果、病院・療養所の入院者から社会福祉施設の入所者へ高齢者の受け入れ先が変化したことが読み取れる。社会福祉施設の規模としては世帯人員5人～29人の施設が多くなっている。

第9表は、世帯の家族類型別一般世帯数、一般世帯人員を掲載した。一般世帯総数の内、単身世帯が26.3%、3世代世帯が13.7%、核家族世帯が53.1%となっている。

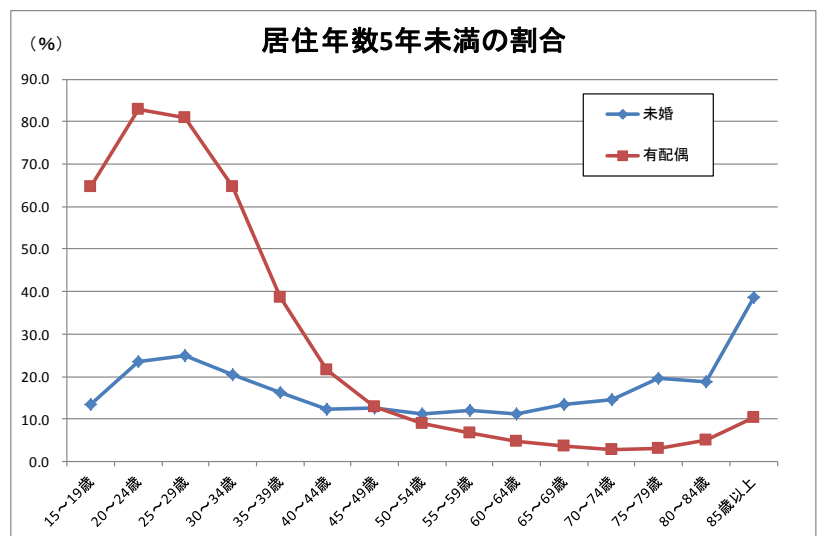
第10表は、住宅の建て方別世帯数・人員の集計である。本市の一戸建て住宅に居住する世帯は77.6%で、そのうち97.0%は持ち家である。

## 6 居住期間

第11表は、居住期間と配偶関係を年齢階級別に示したものである。[グラフ4]はそのうち、未婚、有配偶別居住年数が5年未満の割合を抽出したものである。20代、30代は進学や就職等での転居が発生するが、[グラフ4]の未婚、有配偶での大きな差異はやはり結婚時に転居が多く発生することを示している。

第12表は、世帯主の居住期間と就業等の状況別一般世帯数及び一般世帯人員を掲載した。

【グラフ4】



## 7 労働力状態

第13表は、労働力状態を示したものである。今回調査において、完全失業者は大幅に減り、10年前に比べ15歳以上の人口総数が5.6%の減少に対し、労働力人口は10.2%も減少している。高岡市においても人手不足が深刻となっている。

第14表は、年齢階級別の就業者比率を掲載したものである。前回調査と比較すると80歳以下すべての年代で就業者比率が上昇している。前回調査と比較し5%以上就業者比率が上昇した年代・性別は、20代前半男性、60～69歳の男性、20～34歳の女性、55～69歳の女性となっている。

第15表は、産業（大分類）、従業上の地位、男女別15歳以上就業者数を掲載した。男女比を比較すると、男性が多い産業は製造、建設、運輸等であり、女性が多い産業は医療・福祉、宿泊・飲食サービス、生活関連サービスである。

第16表は、産業（大分類）、年齢（5歳階級）、男女別15歳以上就業者数（総数及び雇用者）を掲載したものである。

## 8 ひとり親世帯の状況、都市計画区分別人口

第18表は、子どもの数別ひとり親世帯数の状況を掲載したものである。

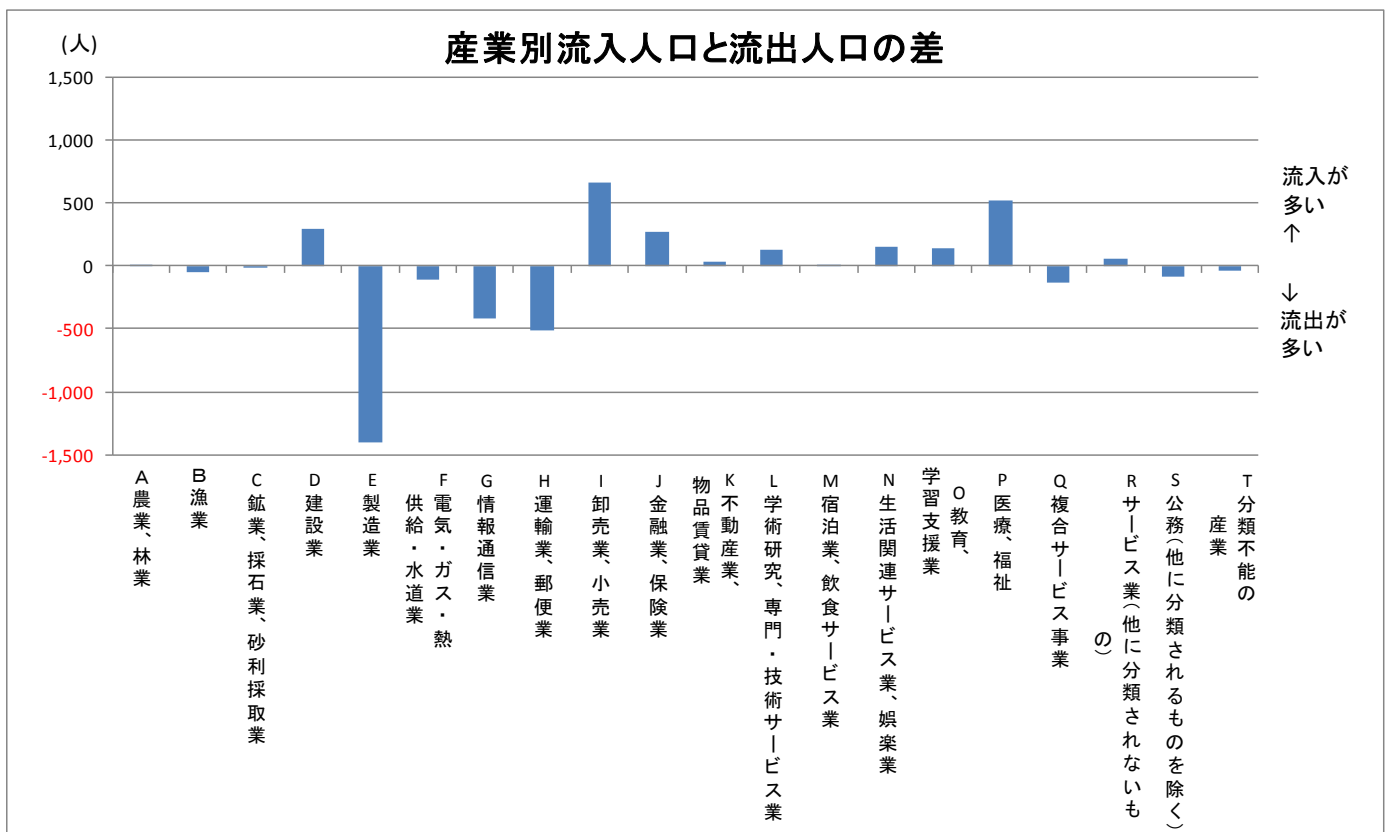
第19表は、都市計画区分別の人口を掲載したものである。人口の74.2%が市街化区域または非線引き区域の用途地域に居住している。

## 9 常住地・従業地による人口（昼間人口・夜間人口）

第20表は、常住地および従業地・就学地による男女別人口の集計および昼間人口について年齢別に掲載した。第21表は、常住地、従業地による産業、男女別の就業者数を掲載した。また第20表加工表は、5歳階級年齢別男女別に昼夜間人口比率を算出した。15～19歳の昼夜間人口比率が高いのは、高等学校や高等教育機関が多いことに起因していると考えられる。20代前半から60代前半の就労の中心となる年代の男性については軒並み昼間人口比率が低く高岡市に住居があるが、高岡市以外へ働きに出かけていることを示す。逆に女性の就労の中心となる年代の比率は若干高く、高岡市外から高岡市へ働きに来ていることを示す。

[グラフ5]は産業大分類別の市外からの流入昼間人口と市内からの流出昼間人口の差を示したグラフである。就労の中心となる年代の男性の昼間人口が低い原因は、製造業、運輸・郵便業に就労する男性が市外に勤務していることに起因している。また、就労の中心となる年代の女性の昼間人口が高い原因は、卸・小売業、医療福祉業や金融・保険業に就労する女性が市外から通勤していることに起因していることが分かる。一般に人口の多い都市地域はその消費力を背景にサービス業等の第3次産業の割合が高くなることから、高岡市が富山県西部地域の中で一定の都市機能を果たしていると言えよう。

[グラフ5]



## 10 産業別就業者数、外国人の状況

第23表は、産業、職業別15歳以上就業者数を集計したものである

第24表は、外国人数を富山県と比較し示しており、第24表加工表は外国人の各種割合を再集計したものである。外国人全体で前回調査より7.1%減少（2,066人→1,919人）しているのに対し、本市に多いブラジル人は26.0%減少（935人→692人）している。しかし、外国人中の割合は依然としてブラジル人が圧倒的に高くなっている。また近年、激増しているのがベトナム人（9人→183人）であり、そのほとんどが技能実習生だと思われる。

## 1.1 小地域集計

第25表・第26表は大字・町名別の小地域集計である。

まず、平均年齢が高い大字・町名を[表2]に抽出した。※印を付してある地域には高齢者向けの社会福祉施設があるため高齢者率が高くなっているが、その他は山間部や農村部で平均年齢が高くなっていることが分かる。それ以外にも旅籠町、三番町、新横町といった中心市街地でも高齢化率が高くなっている。

次に15歳未満の割合が高い大字・町名を抽出したのが[表3]である。能町地区に特に15歳未満の子どもが多いことが分かる。また、65歳以上の割合も少ない地域は、そのほとんどが新興住宅地で占められている結果と言える。

**[表2]  
高齢化率が高い大字・町名**

大字・町名		人口 (人)	平均年齢 (歳)	高齢化率 (%)
オフィスパーク	※	50	87.5	98.00
若杉		218	77.6	86.24
鷺北新	※	293	73.0	72.95
旅籠町		78	65.6	61.54
勝木原		67	65.2	56.72
三番町		72	61.5	56.34
大鋸屋町		109	62.3	55.05
新横町		64	63.2	53.45
伏木中央町	※	492	59.7	53.39
福岡町大野	※	589	61.7	53.33

※人口50人以下の地域は除外

**[表3]  
15歳未満の割合が高い大字・町名**

大字・町名	人口 (人)	15歳未満 割合(%)	15～64歳 割合(%)	65歳以上 割合(%)
荻布四つ葉町	256	34.6	60.6	4.7
能町駅南	69	23.2	68.1	8.7
新寺町	108	22.4	65.4	12.1
戸出岡御所	190	20.5	55.1	24.3
上関町	565	20.3	60.8	18.9
角三島	275	20.1	66.3	13.6
問屋町	287	19.9	68.7	11.4
細池	95	19.1	51.1	29.8
中保	1562	19.1	62.1	18.8
上渡	346	18.3	42.4	39.2

※人口50人以下の地域は除外

## 統計表一覧

統計表番号 (EXCELブックに対応)	統計表の内容 (EXCELブック内のシートに対応)
第1表その1	国勢調査人口の推移と市域の変遷
第1表その2	国勢調査人口(現市域)の推移と市域の変遷
第2表	人口集中地区(D I D)人口の推移
第2表関係	DID 図その1 高岡市人口集中地区図 (H17、H22、H27) DID 図その2 人口集中地区図比較 (H22-H27)
第3表	年齢(各歳、5歳階級)、男女別人口の推移
第4表	年齢3区分別人口と割合の推移(年少人口・生産年齢人口・老年人口)
第5表	年齢(5歳階級)、配偶関係、男女別15歳以上人口
第6表	世帯の種類別世帯数及び世帯人員
第7表	一般世帯の世帯人員別世帯数及び世帯人員
第8表	施設等の世帯の世帯人員別世帯数及び世帯人員
第9表	世帯の家族類型別一般世帯数、一般世帯人員
第10表	住宅の建て方、住宅の所有の関係別住宅に住む一般世帯数及び一般世帯人員
第11表	居住期間(6区分)、配偶関係(3区分)、年齢(5歳階級)別人口
第12表	世帯主の居住期間(6区分)、世帯主の就業・非就業、世帯主の従業上の地位(7区分)別一般世帯数及び一般世帯人員
第13表	労働力状態、男女別15歳以上人口
第14表	年齢(5歳階級)別就業者比率(15歳以上)
第15表	産業(大分類)、従業上の地位、男女別15歳以上就業者数
第16表	産業(大分類)、年齢(5歳階級)、男女別15歳以上就業者数(総数) 産業(大分類)、年齢(5歳階級)、男女別15歳以上就業者数(総数・男) 産業(大分類)、年齢(5歳階級)、男女別15歳以上就業者数(総数・女) 産業(大分類)、年齢(5歳階級)、男女別15歳以上就業者数(雇用者) 産業(大分類)、年齢(5歳階級)、男女別15歳以上就業者数(雇用者・男) 産業(大分類)、年齢(5歳階級)、男女別15歳以上就業者数(雇用者・女)
(第17表)欠番	※学歴が今回調査の調査項目にないため
第18表	子供の数(3区分)別ひとり親世帯数、母子世帯人員及び1世帯当たり子供の数(6歳未満の子供のいる世帯-特掲)
第19表	都市計画の地域区分(47区分)、男女別人口並びに世帯の種類(2区分)別世帯数及び世帯人員
第20表	常住地又は従業地・通学地による年齢(5歳階級)、男女別人口及び就業者数(有配偶の女性就業者-特掲)
第20表加工表	性別、年齢別(5歳階級)就業者数の昼夜間比率(有配偶の女性就業者-特掲)
第21表	常住地又は従業地による産業(大分類)、男女別15歳以上就業者数
(第22表)欠番	※通勤・通学時利用交通手段が今回調査の調査項目にないため
第23表	産業(大分類)、職業(大分類)、15歳以上就業者数
第24表	国籍(12区分)、男女別外国人数
第24表加工表	外国人の割合

第 25 表	小地域集計 人口総数、世代別人口、平均年齢、高齢化率（大字・町単位） 小地域集計 人口総数、世代別人口、平均年齢、高齢化率（字・丁目単位）
第 26 表	小地域集計 常住地による従業地・通学地（5 区分）、男女別 15 歳以上就業者数及び 15 歳以上通学者数

■ 統計表に使用している記号は、次のとおりである。

「－」又は「0」・・・該当数値なし

「X」・・・・・・・結果数値が著しく小さい地域については、秘匿処理（結果数値を「x」に置き換え）を施している。前後の関係から秘匿の数値が推定できる個所も秘匿する。

※ 統計表中の単位未満は、四捨五入してあるので、内訳の計が合計と一致しないものもある。